

ストップコロナ差別

思いやりの輪を広げよう

新型コロナウイルス感染症の世界最初の症例から一年と数か月が経ちますが、いまだ感染の拡大が続いている状況です。
このウイルスの怖いところは、「病気」「不安」「差別」という3つの感染症を引き起こすことです。未知の病気に対する不安が差別を生み、さらなる感染拡大につながっています。
それぞれの立場でできることを行い、みんながひとつになって、負のスパイラルを断ち切りましょう！

第1の感染症 病気そのもの

新型コロナウイルスへの感染は、ウイルスを含む飛沫が口や鼻、眼などの粘膜に触れること、またはウイルスがついた手指で口や鼻、眼の粘膜に触れることで起こります。

〈感染を防ぐために〉

「手洗い・マスクの着用・人混みを避ける」の徹底

第2の感染症 不安と恐れ

新型コロナウイルスは目に見えませんが、薬もまだ開発されていません。わからないことが多いため、私たちは強い不安や恐れを感じ、ふりまわされてしまうことがあります。

〈ふりまわされないために〉

「気づく力・聴く力・自分を支える力」を高めて冷静な対応を

第3の感染症 嫌悪・偏見・差別

不安や恐れは、人間の生き延びようとする本能を刺激します。そして、ウイルス感染に関わる人や対象を日常生活から遠ざけたり、差別するなど、人と人との信頼関係や社会のつながりが壊されてしまいます。

〈防ぐために〉

みんなそれぞれの場所で感染拡大しないように頑張っています。

この事態に対応している全ての方々にねぎらい、敬意を払います。

新型コロナウイルス感染症患者や濃厚

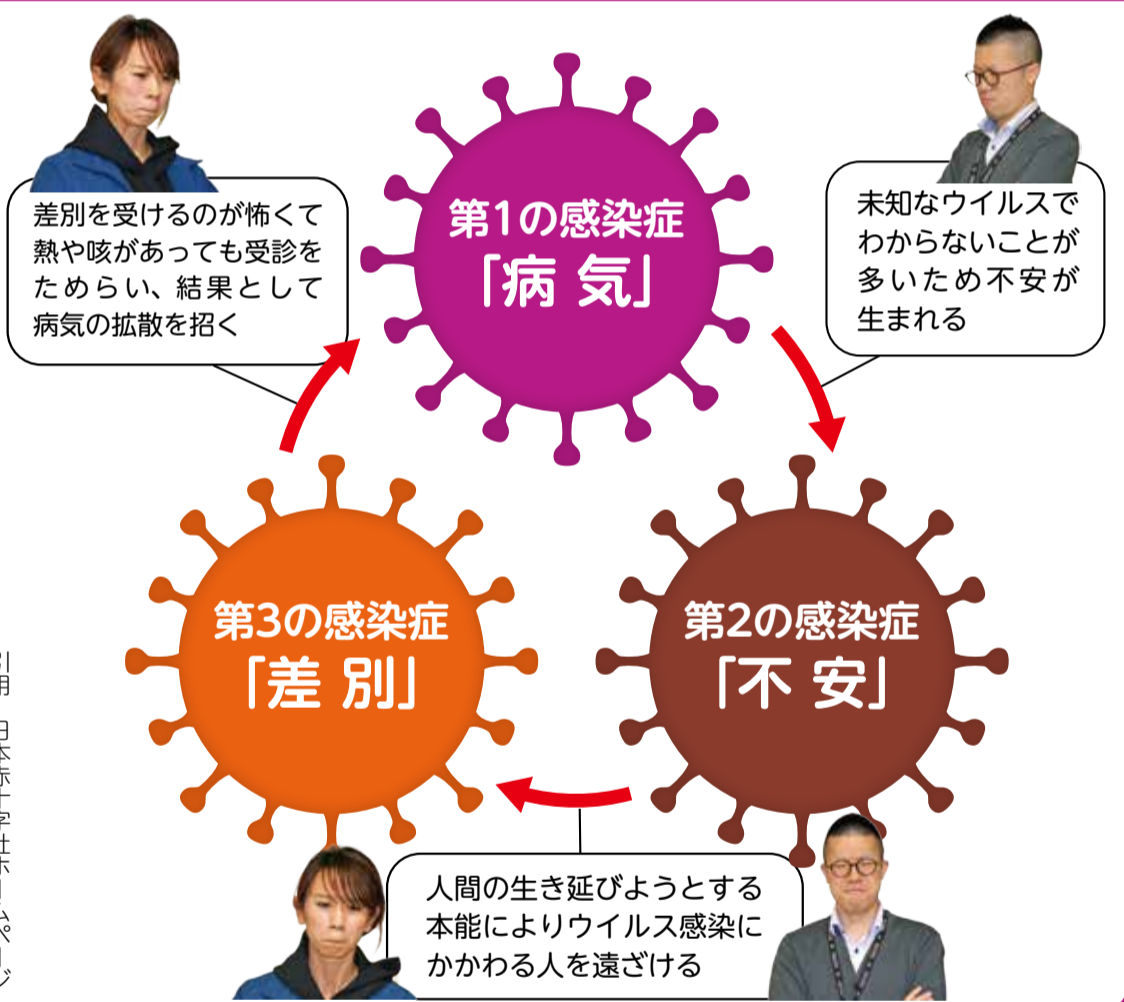
接触者、その家族に対する感染を理由とした偏見やいじめはあってはならないこと、絶対に許されないことです。戦うべき相手は人ではなく「ウイルス」です。

苦しい時だからこそ、お互いを尊重し、支え合うことで、心も身体もコロナに強い地域になることを願っています。



末村区長

負のスパイラルで “感染症” が広がる



Citrus Ribbon PROJECT

シトラスリボンプロジェクト

たとえウイルスに感染しても、誰もが地域で笑顔の暮らしを取り戻せる社会に。そんな願いから生まれた「シトラスリボンプロジェクト」は、コロナ禍で生まれた差別、偏見を耳にした愛媛県の有志によってつくられました。
このプロジェクトを広げる活動をしている歌手のイ・ヨンボさんが区役所にお越しになった際に、「自身で作られた啓発ソングを歌ってくださいましたので、是非ご覧ください。」



シトラスリボンプロジェクト啓発ソングはこちら



みんなで続ける「ありがとう」があふれるまち 住之江区をめぐして

